

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500130		
法人名	株式会社 神山		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	〒028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林11-1403		
自己評価作成日	令和5年12月17日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出来る限り、利用者一人一人のペースに合わせ穏やかに共同生活が送れるように努めている。未だコロナウイルスやインフルエンザの流行により、外出に制限はあるが、室内でできるレクリエーションなど企画し、楽しく過ごしてもらえよう工夫している。利用者ご自身が出来る事はなるべくやって頂き、出来ない事のみ、お手伝いをさせて頂いて、意欲の維持や向上に努めるように支援している。体調に変化があった際は、すぐに家族や医師に情報提供できるようにケース記録を細かく入力し職員間でも情報を共有するようにしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道4号線石鳥谷バイパスから西に入った小高い場所にあつて、広い敷地には利用者と職員がともに耕作する畑があり、大根、ジャガイモ、玉ねぎなど様々な作物を栽培し、食材として活用している。隣接地には系列の地域密着型特別養護老人ホームがあり、日常的な交流に加え、災害時の避難先として位置付け、看護師の支援なども受けている。理念を「心安らぐ、温かい、ふれあいを」とし、職員はそれぞれの行動目標を定めて介護支援にあたっている。管理者は個別面談で実践状況を確認しながら、職員の育成に力を入れ、働きやすい職場の実現に努めている。新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染症に注意を払う状況が続いているが、レクリエーションや季節の行事に工夫を施し、また家族への写真を添えた報告など、きめ細かな連絡などによって信頼関係が構築されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年1月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える場所に掲示している。その理念を共有し、職員が年度目標を立て実践に繋げている。	開設時に定めた「心安らぐ、温かい、ふれあいを」の理念を見える場所に掲示し、常に意識して介護に臨んでいる。理念実現のための具体的な「行動指針」を定めるとともに、職員も毎年度「行動目標」を定め掲示して、利用者一人一人を考えた支援の実践にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	防災訓練の際に地域ボランティアの方に参加していただき交流を深めている。区長が毎月広報を配ってくれている。月1回石鳥谷図書館が本を持って来てくれている。	地域に自主防災会が結成され、災害発生時には協力をいただくこととし、地域が被災した時には、事業所を避難所として提供すること等を盛り込んだ協定を結んでいる。いしどりや祭りの山車を運行してもらったり、移動図書館の来訪、婦人会の踊りの披露など、地域との交流があり、感染症に注意を払いながら良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症の介護方法や入居者の生活様式について報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になってからは、担当者に書類を郵送し、情報を提供、意見・質問を受け返答している。サービスについて意見があれば職員間で情報を共有し、サービスの質の向上に努めている。	行政区長、民生委員、市役所、地域包括支援センター職員とともに、利用者代表、家族代表で構成している。コロナ禍で書面開催が続く中でも、書面により多くの質問が寄せられ、委員の意見に基づいて自主防災会との協定などが実現している。今年1月から参集方式で開催する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の職員も加わっているため、相談や意見を伺っている。	市担当者との連絡は、電話やメールでのやり取りが多くなっているが、必要に応じて、本庁や総合支所へ赴いて助言をいただき、事業所からも情報を提供するなど良好な協力関係ができています。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束について理解を深めている。実践でも身体拘束に該当しないか、意見を出し合い身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践のため、委員会を年3回開催し職員研修会も年4回開催して、身体拘束とは、人権の尊重とはなど、職員全員で共有している。スピーチロックについては、日々の業務の中でお互いに注意しながら支援に努めている。不穏状態になり、暴力行為を行う入居者への支援は、医療機関と連携し一人一人の利用者に向き合いながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修を行っている他に外部研修に参加した職員と虐待について共有し、いかなる虐待も行わないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修を行い理解している。本人の気持ちや本人の言葉などから、必要であれば繋げるようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、分からない事があれば随時対応している。保険の改定や契約に変更がある場合は速やかに追加説明し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見を言いやすい関係を築くように心がけている。家族の意見に出来るだけ応じられるように職員間で話し合っている。	日常の生活の様子をお知らせするため、担当者が写真を入れたお便りを作成し、利用料請求書とともに同封している。また、健康に関連する事項については、きめ細やかに電話連絡しており、その際、意見を聞くように努めている。感謝の言葉をいただくことが多く、苦情が寄せられることはない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを図り意見や提案を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。	管理者は、日頃の業務の中で職員の思いや意見をくみ取ることに努め、また、個別面談を実施し家庭事情や勤務調整、事務分担のこと、資格取得のことなどを聞き取っている。内容によって法人本部に伝えるなどしながら、可能な限り実現出来るよう調整している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望者には面談を行っている。気軽に話せる雰囲気作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行っている他に、希望者には研修を受けさせている。資格取得の費用を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などに参加し情報交換に努めている。入所申し込みの方の実態調査の際など他事業所の管理者、相談員と情報を交換している。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査や入居時の際、本人の言動など注意深く聞き取りや観察をし、どのような対応、対策、声掛けをする事で安心した生活が送れるかなどを職員で共有、検討し関係づくりに努めている。認知や身体機能にあった環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時の聞き取りから、申し込みに至る経緯や生活歴、不安事や要望を可能な限りで詳しく聞かせて頂いている。職員だからこそ、安心してお話ができるような声掛けや対応を心がけ、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査で得た情報をもとに、基本情報を作成し、全職員で共有後、検討し項目を話し合っている。入居後、2週間以内に暫定のケアプランを作成する様に努めている。		

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯量み、簡単な掃除など家庭の暮らしと変わらない生活を職員と共に取り組んで頂いている。生活をする上で、どのように過ごしたいか、どのようにしていきたいか寄り添い、関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	『知らなかった』が無いように、事あるごとに利用者の状況や相談を家族さんに連絡している。毎月のお便りを作成し日々の様子を写真も添付し報告している。面会時に、家族で写真を撮らせて頂きお部屋に飾り近くに感じて頂けるようにしている。家族の写真を持参して下さる家族さんもいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナやインフルエンザ等流行具合にもよるが、外出や外泊を気軽に頂ける様に家族さんへ説明をさせて頂いている。面会の規制が必要か入居時に確認をし、特に制限がない場合には、施設で面会をしている方もいる。馴染みの美容室や飲食店、季節の行事等にも希望がある場合には対応している。	コロナ禍以前は知人や友人等馴染みの方々の面会が見られたが、現在は疎遠となっている。利用者の中には通院時に家族と馴染みの食堂へ行ったり、墓参りや美容室などの馴染みの場所を訪れることもある。家の様子を知りたいとの希望に応じて周辺をドライブしたり、家族が定期的に本を持って来てくれるなど、馴染みが途絶えないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でお話している際には、表情や口調等様子に変わりがないか見守りを行っている。一人ひとりの得意・不得意を把握し、作品作りや生活のお手伝い等活かせるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、入居していた際の情報が必要になった際には、提供している。何かお困りの時や、施設の近くを通った際にはぜひお立ち寄り頂けるように声をかけている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	挨拶や日常生活の中でコミュニケーションを図り、会話の中から意思や思いを把握し本人と話をしながら実現できるよう検討している。困難な場合も、希望により近くできるように努めている。	大半の利用者は自分の意思を伝えることができるが、難しい利用者については、表情や仕草、二者択一での質問などで把握するよう努めている。利用者の思いは連絡帳に残し職員が共有するとともに介護プランにも反映させている。入浴は普段無口な利用者とは話し、思いを伺う良い機会となっている。	
----	-----	--	---	--	--

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔から今までどのような生活を送ってきたか、情報収集を行っている。本人との面談時にも家族やサービス担当者へ生活歴を伺い、馴染みの環境を把握し入居後も変わらない生活を送れるように参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースや生活の記録でどのように過ごしているか全職員が把握できるようにしている。その中で、変わった様子や言動があった際には随時、記録・申し送り・ミニカンファレンスで把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、家族や本人に希望を聞き、ケアプランに反映している。その後の生活の中から、変化があった際には計画を見直している。また、毎月モニタリングを行い、カンファレンスを開き、職員の意見も取り入れ、現状に合った支援をしている。	入居前調査は管理者と主任が訪問し、本人、家族から思いを伺うとともに、担当のケアマネジャーから各種の情報をいただき、当面の計画を作成している。その後は、生活状況を確認しながらモニタリング、カンファレンスを経て、本人・家族への説明と同意を得て介護計画としている。短期6ヵ月、長期1年を基本とし、状況に応じて柔軟に計画を見直しながら対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や行動をパソコンとノートでケース記録に残している。パソコンでは長期間記録の管理や、過去の様子をすぐに見る事ができる。ノートでは直近の情報をすぐに確認することが可能で、パソコンが得意では無い職員も共有する事ができる為2種類の記録方法としている。毎日の記録をもとに、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族、職員でサービスの提案があった際には、計画を立て提供している。例として、個人の誕生日に希望を聞きながらスイーツを食べ全員でお祝いする機会を設けたり、イベントに参加したりしている。生活の中でも、今まで行った事が無い支援も実現できるように話し合い、実行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材を地域の産直やスーパーを利用し、食材などの購入をしている。町内の移動式図書館から毎月本を借りている。田んぼアートや、案山子祭り等季節の行事で外出をしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所での受診対応で行っている。病院通院に情報提供書を渡せるように日々の様子を記録している。	入居前からのかかりつけ医受診を基本的に継続し、家族が受診に同行している。家族からの依頼により職員が同行する場合も多くなっている。受診時には医療機関に情報提供書を持参しており、家族と受診結果を共有するなど必要な医療が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は在籍していないが、利用者に変化があった際は、隣の特養の看護師に連絡、相談ができる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日々の様子を記録し、情報提供している。定期的に家族に連絡を心掛けている。状態によっては退院後の相談を家族や病院と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約説明の時に重度化した場合の対応を話している。	現在、看取りに対応できる状況にない旨を利用契約時に説明し、同意を得ている。重度化した場合は、利用者と家族の希望を踏まえて医療機関と相談し、入院や特別養護老人ホーム等への入所を含めた調整を行っている。隣接の特別養護老人ホームへの入所も選択肢の一つとなっている。	高齢者支援の場においては様々な医療的リスクを伴うことがあることから、特に夜間の緊急医療対応について、職場研修で確認しておくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習を実施している。過去の事例を基に対応の改善を常にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立ち合いの下、火災時避難訓練と年1回の土砂災害時の避難訓練を実施している。消防署員立ち合い時には、改善すべき点があれば指導を受けている。防災ボランティアの方々にも参加して頂いている。	火災を想定した避難訓練を年2回実施しており、1回は夜間想定とし薄暮の時間帯に行っている。消防署の立会い、地域の自主防災会の協力をいただくなど、万全の体制で臨んでいる。緊急時の避難先として隣接の特別養護老人ホームを利用することとしており、職員の相互協力も確認している。食料備蓄は3日分、反射式ストーブ、発電機も備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の日々の様子を記録している。月一回のカンファレンスにて職員間で情報を共有している。	利用者一人一人の尊厳を尊重することを何より大事なことで捉えている。名前はさん付けとし、居室入室前のノック、小声でのトイレ誘導など基本的な礼儀は欠かしていない。利用者の個人的な記録はパソコンで管理し、書類はキャビネットで部外者に知られることの無いよう保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、会議の中から本人の希望、楽しみ悩み等をくみ取れるよう傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本情報を基に、本人の生活習慣、生活状態を理解し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を交換する時は、季節に合った衣類と一緒に選ぶよう心がけている。お化粧が好きな方には、外出時や行事の時、気分転換に職員が行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備やおやつ作りの中で、出来る方には、味付けや盛付など内容に合わせ職員と一緒にやっている。旬の食材を取入れ目でも楽しめる様心掛けている。	献立は、栄養士の資格を持つ社長が利用者の趣向を考慮し週単位で作成している。食材は主に近くのスーパーから購入しているが、利用者とともに育てた作物を利用することもある。職員が交代で調理し、配膳や後片付けなどを利用者と一緒にやっている。刺身や餅などの希望には、工夫しながら応えるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立をもとに、一人一人に合った量や食形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けをし口腔ケアを徹底している。難しい方には仕上げ磨きを行い、必要に応じて歯科通院や希望の方には訪問歯科を利用して頂いている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや状態を把握し共有している。自立に向け、声掛けや見守り、必要に応じパットやリハパン使用など適切な方法で支援を行っている。	排泄チェック表を活用して様子を見ながらの誘導に努めている。多くがリハビリパンツとパッドを使用しているが、2名は自立して布パンを使っている。夜間、2名がポータブルトイレを使用し、転倒防止のためのセンサーマットも使用している。入居後、排泄状況の確認と誘導により、失敗が減少する改善が見られた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医師と情報を共有し、便秘薬や水分量を調整している。飲食物で改善出来るものを工夫して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっている為、その中で入る順番や希望を聞き入浴して頂いている。一人で入浴したい方、長く入浴したい方など希望を聞き可能な限り要望に合わせている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を楽しんでもらっている。	月水金の午後を入浴日とし、週2回入れるよう調整している。清拭は毎日行い、必要に応じシャワー浴も実施している。また、季節に応じ菖蒲湯、柚子湯を楽しんでもらうこともある。浴室は職員と会話で楽しい時間を過ごす場面でもある。湿疹等の有無も確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休みたい時に休めるようにしているが、昼夜逆転しないよう午睡時間に気を付けている。希望があれば自宅で使用していた寝具で休んで頂いている。ベッドだけでなく、敷布団でも対応できるように畳の準備や環境を整備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者のかかりつけ医毎に薬の説明をファイルし、各自確認できるようにしている。薬の変更があればマークし申し送りをしている。変更後はケース入力を細かく記載するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入浴日以外の午後は趣味活動や創作品作りをしている。洗濯物を畳んだり、季節により畑の物を収穫したり、行事や祭りの準備等、一人一人の特技に合った事を一緒に行っている。季節に合った行事や誕生会を行い楽しい時間となるように提供している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望あれば、外へ行き庭の花や景色を眺めたり散歩をしている。お花見や初詣、地域の方々の協力でお祭りの山車を見学したりと出かける機会を作っている。	天気の良い日は近隣への散歩やお花見、祭りの山車見学、紅葉狩り、紫波の案山子祭り見学など、感染症予防に細心の注意を払いながら外出の機会を作っている。家族との通院時の外食や一時帰宅も制限しておらず、日常的な外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の持ち込みはお断りしているが、不足の物がある時は家族に相談し、持参して頂いたり、職員が購入し本人に満足して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を掛けられる準備はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから廊下を見渡すと、両側と奥にそれぞれ配置され、各所分かりやすく表示している。温度も細目に調整している。壁面を利用し四季折々の作品を飾り季節の変化が分かるように工夫している。	食堂とリビングを兼ねたホールには、テーブルと椅子に加え、ソファやテレビが配置され、壁には利用者が作成した季節ごとの作品が飾られている。床暖房とエアコン、加湿器で室温等が調整され、利用者がそれぞれのお気に入りの場所で居心地よく過ごす環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の性格や相性にも注意し食事の時は定位置に座っていただくが、それ以外の時間は各々の椅子の他にソファも二つ配置し思い通りの席に座り会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時、本人が日常的に使用していた物を持参して頂くようにご家族に伝え、生活の場として可能な限り本人が馴染むよう配置している。	ベッドとタンス、棚が備え付けられており、エアコンが完備されている。テレビや衣装ケース、時計やぬいぐるみなどが持ち込まれており、本人や家族が自由に配置できるようにしている。使い慣れた枕を持参する利用者もあり、本人にとって安心して暮らす空間が確保されている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	レク活動で作った作品を居室や廊下に飾り鑑賞してもらっている。居室の動線の障害になる方は心身の状況を見て、タンスや洗濯物干しを置かないようにしている。		